

景況実感調査(2018年12月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 需要は堅調だが価格が上がらない。集購やその他紐付きとの格差が既にあり、上げると紐付きにシフトされる心配もあって踏み切れない業者もあると聞く。シェア確保か、値上げか、会社によりスタンスは異なるだろうが、いずれにしても店売りマーケットで収益確保するには値上げが必須と考える。
- ② 先行きが不透明である。
- ③ 12月、1月は日々の数量が多く、中身も濃かったが、稼働日数の減があるため横這い傾向の状態だ。
- ④ 実質的な営業日は18日となり、対前月比3日減となるも売上、数量共に微増となった。短納期対応物が多く、ロットも小さい案件が目立った。価格は程々取れるが数量や利益の絶対額は物足りない。トラックも人手も不足感はますます高まり、この環境の中での利益確保は新年の共通課題だ。
- ⑤ 12月は日当たりとしては前月比横這いと、引き続き堅調であった。高炉トラブルの影響もあり、国内は更にタイト化しそうな状況ではあるが、国際市況の軟化には注視しながら商いをしなければならない。

中板

- ① 引き続き堅調な需要に支えられ、コイルセンターの稼働は順調に推移しているが、10～11月によく盛り上がりを見せた店売り市場が、再び低調になってきた印象である。長年の間に店売りマーケットが小さくなってきたことに加え、店売り以外の紐付き材の流入の恒常化もあり、僅かの変化に過剰反応しているのではないか。高炉のトラブルに加え、海外材と国内材の値差もささやかれ始め、米中貿易摩擦や自動車・産機の前年割れ予想もあって、2019年の鉄鋼需給見通しは不透明感が漂い、流通としての対応を難しくさせている。

厚板

- ① 建産機ユーザーからの受注は10月以降、高水準で横ばい推移しているが、今後の建産機の海外市場動向によっては調整局面もあり得る。土木系は複数の案件が並行して進行しており、好調が続いている。建築関係についても、引合いはあるが、価格面と工場稼働を考慮して是々非々にて対応している。足下好調に推移してきた素材の引合いは12月に弱含みに転じたが、建材関連の単発受注があり、販売量は前月比では増加した。相場の方角観が見えにくくなりつつあることが今後の素材受注にどのように影響するのか注視したい。在庫数量は減少しているが、メーカー側の生産要因からロールが遅れ気味であることから入荷状況についてはしっかりとモニターしていく必要がある。

开シ鋼

- ① 10月以降の荷動きに変化はない。1月以降もこの荷動きは継続してもらいたい。荷動きがあれば市況も堅調が続く。

工工开シ鋼

- ① 12月の倉出しは減少したが、前年同月比はプラス。土木サイズの出庫が増加しておりタイトな状況。もう一段唱えを上げていく。

異形棒鋼

- ① 11月が好調だった反動で12月は減少となったが、前年同月比ではやや増加。新規物件は相変わらず少なく、スクラップ市況の下落もあって直送物件は引き続き不振。
- ② 店売りは11月のピークより動きが悪くなったが、12月、1月は通常より良い。単価も変わっていない。2月まで横這いで行くのではないか。

平鋼

- ① 店売りは相変わらず小口中心。建築関係は好調ではあるが、材料の納入は一段落し荷動きは落ち着いてきた。加工品は変わらず忙しさを維持している。価格転嫁は徐々に浸透しているが、年明け以降も継続して実施していく。
- ② 建築向けは堅調だが店売りは低水準。特に年末は荷動きが無く惨憺たる結果となった。単価は徐々に上がってきているが適正とは言えず、利益は厳しいままだ。年末ということもあり、トラックも手配がつかず、デリバリー面でも厳しさが続いた。

車径量开シ鋼

- ① メーカーのロール遅れによる一部サイズの欠品が続いているが、全体的なタイト感までにはなっていない状況だ。
- ② 引き続きオリンピック案件に遅れあり。受注品種にバラツキがあり、工程に苦慮している。

鋼管

- ① 製品のタイト感が強まる。欠品、入荷遅れのせいで引合いに応えられず、出荷量が減少した。
- ② 鋼管のメーカー供給に不安感がある。
- ③ 日割りの出荷量は堅調に推移している。在庫はタイトであり、価格転嫁を進めている。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車、建設機械関連は紐付きを中心に需要全般で高水準。産業機械、工作機械は機種、分野により動向に差があるが総じて陰りが見える。店売りの荷動きはデイリーの引合い減により盛り上がりを欠く状況となっている。市中在庫についてはメーカーからの納期遅れ等は続いているが、一時ほどの品薄感は薄れている。市況については横這いで推移している状況。
- ② 11月に比べて出荷がやや減少した。
- ③ 12月は前月と比べて減少しており、状況はますます厳しくなるのではないかとと思われる。荷動き、市況共に先行きが不安。

磨棒鋼

- ① 紐付き品は自動車向け、建機向けを中心に高い需要を維持している。一方、産機向けについては先月より調整局面を迎えており、長期化の様相。素材となる特殊鋼線材、棒鋼は依然としてタイトな入荷状況が続いているが、最悪な状況からは脱しつつあるような雰囲気がある。今後は米中間の貿易、安保問題に経済が大きく左右されると思うが。来年度以降、景気は緩やかに下がっていくのではないかと感じる。

その他

<鉄スクラップ>

- ① 荷余り感による値下げが止まらない状況。

<金属表面処理加工>

- ① 12月は紐付き、物件物ともに計画通り。スポットは予想以上に低調で30%減の処理となる。ただし、中旬以降、まとまった物量の引合いが見られ、年明けにより期待している。1月も確定している物件物を中心に安定操業で推移する予定。